

令和 7 年 7 月 14 日

出雲市議会議長 様

会 派 名 公明党

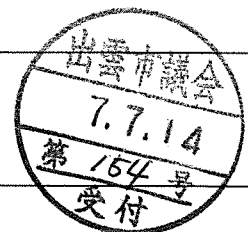
代表者氏名 錦織 稔

(署名又は記名押印)

視察研修について (届)

このことについて、下記により実施いたしますので、関係書類を添えて届けます。

1. 日 程	令和 7 年 8 月 5 日 ~ 令和 7 年 8 月 7 日 (3 日間)	
2. 視察研修先 及び視察研修 目的	東京都内視察 ① 大田区 ② 荒川区 ③ 八王子市 ④ 新宿区 ⑤ 豊島区	① 大田区内における新規創業及び中小企業者の 新分野進出の促進を図り、活動の提供をする 施設「六郷 BASE」の視察 ② 中央図書館、吉村昭記念文学館、ゆいの森こ ども広場が一体となった「ゆいの森あらかわ」 の視察 ③ 小中一貫校として教育展開される「いずみの 森義務教育学校」の視察 ④ 地方議員研究会指定の研修会 (内容 : 「必ず成 果が出る質問の取り上げ方」に参加 ⑤ オーガニック食品販売店「こだわりや」の視 察 (将来的な「トキ」関連米のブランド化を 見据え、「こだわりや」の取組や販売の工夫を 学ぶため。)
3. 参加者	錦織稔 樋野千晴 石橋広信 計 3 名	
4. 添付書類	行程表 (別紙)	



公明党行政視察日程表 2025.8.5～8.7 (7/10 現在)

●8/5(火)

07:00 出雲空港 集合
07:45 出雲空港 出発
09:10 羽田空港 着
10:06 移動 京急空港線特急
10:38 新橋 着
10:50 東急ステイ新橋 着
11:30 昼食
13:00 新橋 出発 浅草線特急→(平和島)→京急本線→(六郷土手)
13:26 六郷土手 着
14:00 大田区「六郷 BASE」
視察①
16:00 出発(散策)
18:00 東急ステイ新橋 着

●8/6(水)

08:15 東急ステイ新橋 出発 JR 山の手→(日暮里)→京成本線
→(町屋駅前)→都電荒川線→(荒川二丁目)
09:05 荒川二丁目 着
10:00 荒川区 ゆいの森あらかわ
視察②
11:30 終了
11:45 昼食
12:36 荒川二丁目 出発(八王子へ)
都電荒川線→(三ノ輪橋)→日比谷線→(秋葉原)→JR 総
部線→(お茶の水)→JR 中央青梅線快速→(新宿)→JR
特急かいじ 27号→(八王子)
14:01 八王子 着
14:30 視察③
八王子市立いずみの森義務教育学校
16:50 八王子 出発→新橋へ
JR 特急あずさ 38号(新宿)、山の手(品川)
17:50 新橋 着
18:00 東急ステイ新橋 着

● 8/7 (木)

8:30 東急ステイ新橋 出発→新宿へ

8:49 新宿 着

10:00 視察④ (研修会)

12:30 終了

12:45 昼食

13:30 移動 新宿→池袋

13:45 池袋 着

14:00 視察⑤ (こだわりや)

15:34 池袋出発、羽田空港

16:37 羽田空港 着

18:15 羽田空港 発

19:45 出雲空港 着

令和7年 8月 12日

出雲市議会 議長 様

会 派 名 公明党

代表者氏名 錦織 稔



(署名又は記名押印)

視察研修について（報告）

このことについて、下記により実施いたしましたので、関係書類を添えて報告します。

1. 日 程	令和 7 年 8 月 5 日 ～令和 7 年 8 月 7 日 (3 日間)	
2. 視 察 研 修 先 視 察 研 修 目 的	東京都内視察 ① 大田区 ② 荒川区 ③ 八王子市 ④ 新宿区 ⑤ 豊島区	① 大田区内における新規創業及び中小企業者の新分野進出の促進を図り、活動の提供をする施設「六郷 BASE」の視察 ② 中央図書館、吉村昭記念文学館、ゆいの森こども広場が一体となった「ゆいの森あらかわ」の視察 ③ 小中一貫校として教育展開される「いずみ森義務教育学校」の視察 ④ 地方議員研究会指定の研修会に参加 ⑤ オーガニック食品販売店「こだわりや」への視察（将来的な「トキ」関連米のブランド化を見据え「こだわりや」の取組や販売の工夫を学ぶため）
3. 参 加 者	錦織稔 樋野千晴 石橋広信 計 3 名	
4. 添 付 書 類	1. 行程表.	



(報 告)
8/5 (火) 大田区 「六郷 BASE」
ものづくりのまちの大田区。町工場も多く集積する南六郷エリアに「六郷 BASE」あり
社会課題を解決したい。新産業に進出したい。ものづくりをアップデートしたい。
起業家コミュニティの中で仲間と切磋琢磨したい。新ビジネスに挑戦する起業家、起業希望者、
中小企業の方々を対象に、ワークスペース、ノウハウ、マッチングの機会を提供されている。
現在入居社は40社。うち法人化24社(1人~5人くらいの規模)
【特徴】成長できる環境、地元への貢献、副業希望者の支援、異業種とコラボできる、新規事業も支援
試作室にて3Dプリンター利用可、企業成長のために伴走・寄り添う取組み、3年で自立目指す、
【その他】卒業生が地元に残る割合が多い。この施設は行政支援のもと成り立っているが、地元
大田区の創業者との連携のもと支えられている。都内にも同じような施設があるが、ここがハイレベル
【入所の際の評価基準】1.必要性(支援の)2.採算性(市場における)3.地域貢献4.知識・能力
5.計画性(自分なりに計画を立てて)
【施設状況】オープンスペース、セミナールーム、試作室(3Dプリンター、レーザーカッター)
コワーキングスペース、シェアードオフィス、オフィス、ミーティングルーム
(利用料金) オープンスペース(1000円/1日)、コワーキングスペース(8000~10000円/月)
入居者エリア(40,000~70,000/月)

(視察研修)

(所 感)

そんなに規模は大きくないが、どこよりも信念をもって挑む企業を育てるとの共通した理念が功を奏し、地元で貢献したいとの思いを持つ企業が続々と誕生している。また副業支援にも繋がり、その取り組みは注目に値する。何よりも地場産業が活性化している。評価の基準5項目に見られるように、行政の思いも素晴らしい、それに何とかマッチしていこうとの企業側の思いが大きな力となり、この成功している取組につながっている。まだ出雲ではここまでの企業支援はできていないが、今後のためにはその必要性を強く感じました。大変に参考になりました。

8/6 (水) 荒川区 「ゆいの森あらかわ」

これまでにない新しい融合施設 (3つの機能あり)

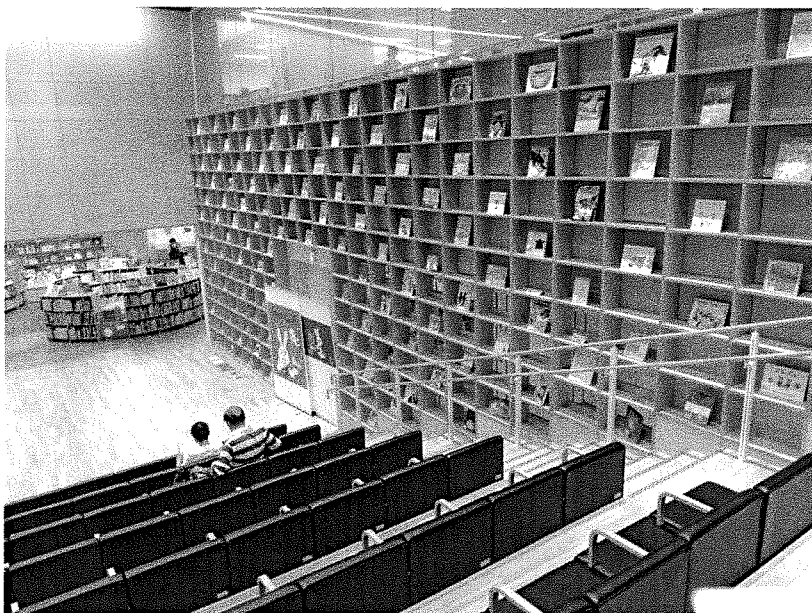
○図書館： 赤ちゃんから高齢者まで、全ての世代に新たな発見と読書の楽しみを提供する場

○吉村昭記念文学館： 作家・吉村昭を感じ、文学に親しみ、文化を育む空間

○ゆいの森こどもひろば： 子どもたちの夢や生きる力、子育ての喜びや楽しさを地域ぐるみでぐくむ

荒川の未来創りの拠点

【特徴】図書館があるのに「静粛に！」ではなく、地域コミュニティの拠点だから、会話 OK。静寂の空間がいい場合は、学習室へ。図書館があるのに飲食可スペースがあり長時間滞在可能となっている。カフェには貸出前の図書を持ち込める。災害時は防災拠点。開館 10 周年、来館者 平日 2,000 人 休日 3,000 人と子どもから高齢者まで幅広い。図書状況 開架 30 万冊規模、閉架 30 万冊規模、



(館内視察)

(所 感)

中央図書館、吉村昭記念文学館、こどもひろばの3つの施設を複合（融合）することにより子どもから高齢者まで幅広い方々を収容できることは市民の活性化に繋がります。良い取り組みと思います。

従来のやり方を見直すことで、市民の反応も違ってきています。（例）図書館にカフェと食事を可にしたり、カウンター席に電源を配置し、長時間の滞在が可能となり、利用者が増えた事実は市民の期待度を感じます。おそらくこれらは市民の声を真摯に受け止めた結果だと思います。参考にすべきと思います。ランニングコストは令和6年度決算で約6.5億円で内訳は会計年度任用職員の人件費約2.9億円、中央図書館費1.6億円、施設管理費約1.7億円、その他運営費3千万円とのこと。出雲市に於いても、旧体育館、旧庁舎跡地利用に関して、現在検討中だと思いますが、是非参考にさせていただければと思います。

8/6(水) 八王子市 「いずみの森義務教育学校」

八王子 人口56万人（中核都市） 市制施行 100周年 21の大学有 9万人の学生の町

【小中一貫教育】

児童・生徒の9年間の発達を3つの階段で捉え、9学年の区分「4・3・2」を基本にしています。

第1期（1年・2年・3年・4年）第2期（5年・6年・7年）第3期（8年・9年）

校長1人、副校長4人の管理職を核とし、組織的な学校運営を行っています。

授業の1単位時間 第1期 45分、第2・3期 50分

給食後に全生徒・児童が清掃に取組み、その後に昼休み。

クラブ活動時間 60分 年間15回設定

施設 複合施設、屋上プール（可動式床）、プロジェクター映写対応黒板、ワークスペース（教室と廊下の仕切り開放可）

【小中一貫教育の実施形態】

小中一貫教育グループ（校舎分離型） 中学校1校とその周辺に位置する小学校1校から4校が1つのグループとなって「9年間で育てたい児童・生徒像」「具体的な取組み」を設定し教育課程を編成

義務教育学校（校舎一体型） 一人校長の下、一つの教職員組織が置かれ、義務教育9年間の学校教育目標を設定し、9年間の系統性を確保した教育課程を編成（ここはこのパターン）

【これまでの経緯と成果】

令和2年度開校 児童生徒1,400人、

教員の意識の変容、合同活動による一体感の創出、地域コミュニティの醸成、



(いずみの森義務教育学校にて)

(所 感)

開校 6 年目を迎えられ、更に教育に磨きをかけられ、全教職員が一丸となって、9 年間で子どもたちの可能性を最大限伸ばしていこうとの思いがひしひしと感じられた。取組み内容は記載の通りだが、それにより、一番大切な児童生徒の「心」の部分がかなり育まれていると思った。また生徒数 1,400 人に対して、不登校生徒数が 20 人とのこと。支援員さんがしっかりと寄り添っていらっしゃる結果のようです。また合同活動の効果で上級生は下級生に「思いやり」の心が宿り、下級生は上級生に「憧れ」の心が宿り、これらが相乗効果でよい環境を構築しているようです。合同活動の素晴らしさを感じました。また、兄弟がいない子どもたちでも、ここでは多くのお兄さん、お姉さん、弟、妹がいますので、これも合同活動の効果だと思います。出雲市も不登校生徒が年々増え、大きな問題となっております。また学力面においても課題が多くあります。「地域の子どもは地域で育てる」との信念のもと開校された「いずみの森義務教育学校」の教育理念はその内容を見ても価値は大いにあると思います。また、学校と家庭と地域を結ぶ「コミュニティ・カレンダー」は大変に参考になりました。

8/7(木) 10:00 地方議員研究会 病院関連質問で地域の医療を守る特別研修

「必ず成果が出る質問の取り上げ方」講師 城西大学経営学部 教授 伊関友伸氏

・なぜ議員向けセミナーを行うのか。

講演者は 10 年近く、地方議会議員セミナーで自治体病院について話をしている。

自治体病院は専門性が高く、分かりにくいこともあって参加者が限られているため。

・病院も自治体も病院経営に関して不勉強

・議会質問 1 つで 1 億円

的確な質問をすると数千万円から数億円の経営改善ができるのが自治体病院経

【講演内容から】

- ・調整係数Ⅱを上げるには

医師数を増やし、病院が対応できる診療の質と量を増やす。

これから到来する後期高齢者の急増に対応した医療を行う（質が高く、効率性が高い）

- ・議会質問のヒント

調整係数Ⅱについてどのように分析しているか。

調整係数Ⅱを上げるためにどのような努力をしているか。

最近の診療報酬加算の状況と今後どのような加算取得を目指すか。

- ・事務職の重要性

急激に変わっていく診療報酬制度や DPC 調整係数に対応するには、素人の事務職員では限界がある。

専門性の高い事務職員を雇用する必要がある。

- ・医療機能向上による収益向上

今後の病院の収益改善のポイントは研修機能を向上させ、医療職を集めること、医療機能を向上させて加算を取ること、DPC 対象病院は調整係数Ⅰ・Ⅱを上げ収益を増加が重要

- ・地域の最大の課題は本格的少子高齢社会の到来

- ・役人は時代の大変化に対応できない

- ・地方議会の果たす意義は大きい

住民に近く、政務活動費などを使って情報を入手可能な地方議会の方が時代の変化に対応できる可能性がある。

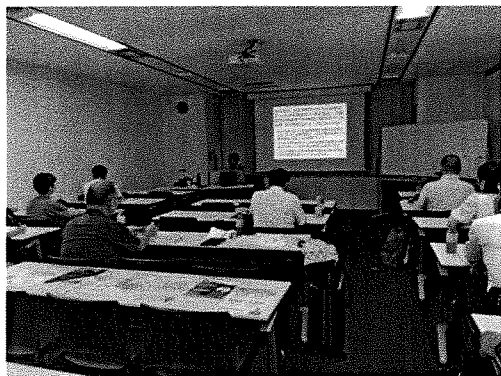
- ・地方議会・議員が地域医療を破壊する

- ・医師の退職の危険

【今後への提案】

- ・今、医師の世界は、超売り手市場のため、近隣市を含め、どこにどんな医者がいるかを知ること。

・頑張っている医師の気持ちを絶たないこと。そういう地域にならないと、勤務医は定着せず、今いる医師にも愛想を尽かされる。



（地方議会研究会の研修）新宿区にて

8/7(木) 14:00 こだわりや本部 視察 豊島区東池袋 藤田専務との対談

(株) こだわりや・・・都内に約 50 店舗のオーガニック店舗を展開。オーガニック食品の聖地

島根県のオーガニック食品の取り扱い 200 点で国内 No1 の実績

今回、出雲が令和 9 年に放鳥の予定の「トキ」に関して、その関連商品、特に「トキ米」の PR に担当課の次長からのパンフレットを預かり、今後の共同開発の依頼をお願いする。

トキの育つ自然環境の中でつくられた農産物に対しては、お客様からの反応も良いのではとの藤田専務からの話もあり、何とか、こだわりやさんの基準にそった商品ができるように、担当課にもお伝えして参ります。パッケージの話にもなり、その際のデザインはキャラクターであるならば、「キレイ」「かっこいい」よりも「かわいい」「愛らしい」の感覚が、またサイズの的には「お土産タイプ」ではなく「2kg サイズ」(日常の主食タイプ) が良いとのことでした。

公明党行政視察日程表 2025.8.5～8.7

●8/5(火)

07:00 出雲空港 集合
07:45 出雲空港 出発
09:10 羽田空港 着
10:06 移動 京急空港線特急
10:38 新橋 着
10:50 東急ステイ新橋 着
11:30 昼食
13:00 新橋 出発 浅草線特急→(平和島)→京急本線→(六郷土手)
13:26 六郷土手 着
14:00 大田区「六郷 BASE」
視察①
16:00 出発(散策)
18:00 東急ステイ新橋 着

●8/6(水)

08:15 東急ステイ新橋 出発 JR 山の手→(日暮里)→京成本線
→(町屋駅前)→都電荒川線→(荒川二丁目)
09:05 荒川二丁目 着
10:00 荒川区 ゆいの森あらかわ
視察②
11:30 終了
11:45 昼食
12:36 荒川二丁目 出発(八王子へ)
都電荒川線→(三ノ輪橋)→日比谷線→(秋葉原)→JR 総
部線→(お茶の水)→JR 中央青梅線快速→(新宿)→JR
特急かいじ 27号→(八王子)
14:01 八王子 着
14:30 視察③
八王子市立いずみの森義務教育学校
16:50 八王子 出発→新橋へ
JR 特急あずさ 38号(新宿)、山の手(品川)
17:50 新橋 着
18:00 東急ステイ新橋 着

● 8/7 (木)

8:30 東急ステイ新橋 出発→新宿へ

8:49 新宿 着

10:00 視察④ (研修会)

12:30 終了

12:45 昼食

13:30 移動 新宿→池袋

13:45 池袋 着

14:00 視察⑤ (こだわりや)

15:34 池袋出発、羽田空港

16:37 羽田空港 着

18:15 羽田空港 発

19:45 出雲空港 着

令和 8 年 1 月 14 日

出雲市議会議長 様

会 派 名 公明党

代表者氏名 錦織 稔



(署名又は記名押印)

視察研修について (届)

このことについて、下記により実施いたしますので、関係書類を添えて届けます。

1. 日 程	令和 8 年 2 月 2 日 ~ 令和 8 年 2 月 3 日 (2 日間)	
2. 視察研修先 及び視察研修 目的	2 月 2 日 (月) 島根県アンテナショ ップ神在月 2 月 3 日 (火) 地方議員研究会主催 セミナー講義	世田谷に初の島根県アンテナショップが 1 月 10 日にオープンしたため、取扱商品の状況と顧客の 反応、更に出雲の商品の新規取り扱いに向けての 取組み等に関して視察に行く。 講演受講 「地方に人を呼び込め観光の基礎」
3. 参加者	錦織稔、石橋広信、樋野千晴 計 3 名	
4. 添付書類	行程表 (別紙)	



【2026 年 2 月 2 日～2 月 3 日 公明党会派視察日程表】

2 月 2 日（月） 9:00 出雲空港集合
 9:20 出雲空港発
 10:35 羽田空港着
 11:00 移動
 11:30 ウ“ィアインホテル着
 12:00 昼食
 13:00 移動
 14:00 「神在月」視察
 16:00 移動
 17:00 ウ“ィアインホテル着

2 月 3 日（火） 9:00 ホテル出発
 10:00 講演受講
 13:00 昼食
 14:00 移動
 15:30 羽田空港着
 16:25 羽田空港発
 18:00 出雲空港着

令和 8 年 2 月 4 日

出雲市議会議長 様

会 派 名 公明党

代表者氏名 錦織 稔



(署名又は記名押印)

視察研修について (報告)

このことについて、下記により実施いたしましたので、関係書類を添えて報告します。

1. 日 程	令和 8 年 2 月 2 日 ~ 令和 8 年 2 月 3 日 (2 日間)	
2. 視 察 研 修 先 視 察 研 修 目 的	2 月 2 日 (月) 島根県アンテナショ ップ神在月 2 月 3 日 (火) 地方議員研究会主催 セミナー講義	世田谷に初の島根県アンテナショップが 1 月 10 日にオープンしたため、取扱商品の状 況と顧客の反応、更に出雲の商品の新規取 り扱いに向けての取組み等に関して視察に 行く。 講演受講 「地方に人を呼び込め観光の基礎」
3. 参 加 者	錦織稔、石橋広信、樋野千晴 計 3 名	
4. 添 付 書 類	1. 行程表 2. 報告書 3. 	

【2026 年 2 月 2 日～2 月 3 日 公明党会派視察日程表】

2 月 2 日（月）	9:00	出雲空港集合
	9:20	出雲空港発
	10:35	羽田空港着
	11:00	移動
	11:30	ウ“ィアインホテル着
	12:00	昼食
	13:00	移動
	14:00	「神在月」視察
	16:00	移動
	17:00	ウ“ィアインホテル着

2 月 3 日（火）	9:00	ホテル出発
	10:00	講演受講
	13:00	昼食
	14:00	移動
	15:30	羽田空港着
	16:25	羽田空港発
	18:00	出雲空港着

(報告)

【神在月】視察 奥沢駅より徒歩 15 分の場所

1 月 10 日世田谷初の島根アンテナショップとしてオープン

およそ 20 坪くらいの店舗だったが、約 15 社の商品が所狭しと並んでいた。

オーナーは東京の方で、アシスタントが島根県出身（出雲の観光大使）の人

「なぜここなのか」に対して、アシスタントが色々と場所を見て回り、客層の高さに注目、決定。

実際、駐車場もない中での営業。近隣の散歩中の客がメイン。ロコミの効果と客層の高さに期待。

商品の状況を聞いたところ、仁多米（1kg）、クロモジ、ペット食品、調味料が売れ筋商品とのこと。

また、NHK のばけばけ効果もあり、関連商品もよく売れているとのこと。

(所感) しかし、お店の環境も決して良いとは言えず、課題也多そうだ。先ず、お店の宣伝は必須課題。

そして、試食や試飲等で商品の味を知ってもらうこと。こだわり商品の付加価値を知ってもらうこと、

あまり荷物にならない方法を考えること、意外なものを売っている（ペット食品）ことの宣伝等必要。

客層は比較的、高齢者が多いということだが、意外と作ることを面倒がられる声があるとのことなので、

シジミ等はレトルト食品が良いのかもしれない。また調味料は味噌、醤油が比較的アイテムが少ないの

で、もう少しあってもいいのではと思った。出雲の商品がまだそんなに多くないので、オーナーにもう

少し取り扱ってほしい希望を話した。まだオープンして 20 日余りだが、手ごたえを感じていらっしゃる

様子なので、新たなこだわり商品の開発に努めていただきたい。お隣の大岡山の商店街でも島根県

の商品が定期的に販売されているとのこと。競争は激しいが、商品力で頑張ってください。

出雲の商品の紹介の際にその商品の期待値を語ったところ、今後の売れ筋ならば是非とも協力をさせていただきたいとの話をいただいた。作る側と売り側とが協力していくならば良い方向に向けると期待しながら、今後に繋がって行きたい。

以下、現地での写真です。



神在月でオーナーを囲んでの写真

入り口付近の写真

店内商品陳列写真

店員さんとの商談の様子

(報告)

【地方議員研究会】 セミナー講義「地方に人を呼び込め！」

自治体観光戦略①

- ・観光とは 人生観、世界観
- ・観光政策 都市政策の総和
- ・観光立国 France の現状 なぜ人はパリに向かうのか? 「憧れ」がある!
- ・京都の観光戦略の前に・・・あなたの街には、どれだけの有効な観光資源がありますか?
- ・誘致・セールス ⇔ マーケティング
- 「来てください」 「行きたい」
- ・ブランドは理屈ではなく「憧れ」
- ・低価格ブランド化しない 色々は不要(まず一つ)
- ・日本一を目指す(二番じゃダメ) シンボルを作る 食のアウトプット重要 映え
- ・ドバイに学ぶ観光戦略 欧州をターゲットにした戦略 世界 NO1 戦略
- ・高級ホテルライフの提供
- ・世界初の7つ星ホテル
- ・京都の観光戦略 コロナ前までの状況
- ・外国人宿泊客数
- ・外国人観光客の割合
- ・観光消費
- ・修学旅行生への取組み
- ・京都観光のポートフォリオ
- ・京都市への訪問動機 観光政策 観光施策の推移 観光消費額の単価
- ・3つの集中の是正 魅力の向上 京都らしい景観の保全・継承等
- ・観光は…インバンドは必ず成長 絶対的成長産業
- ・問題は地元にとって儲かる観光戦略がつかれるか?

(所感)

観光政策には行政で言うならば環境、交通、教育、福祉、保健、産業等多くの分野が関わることを学んだ。

観光の悪い面の話の中で所得の低さを挙げられたが、今後は高所得化への動きが求められる。

観光通訳などは良い収入になるのでは・・・

なぜ人はパリへ向かうのか 「憧れ」 なぜ北極へ行くのか、南極へ行くのか 同じものがそこにあるブランディング戦略とは誘致ではなく相手が行きたいと思うかどうか鍵があると思った。

京都では行政ではなく DMO が中心となって観光戦略を行っているとのこと。出雲でもそのようになっ

ていただきたい。

成功のブランディングを聴いていると共通した項目が感じられた。それは・・・

- ① 日本一を目指す（二番ではダメ）
- ② シンボルを作る
- ③ 映え 見せ方、演出

これらが大事なことと思う。

ドバイの観光戦略 ドバイの国家収入のうち原油関連は 10%以下とのこと意外でした。

ターゲットを絞る（欧州 英語だけで何一つ不自由のない国際都市であること）

世界一の戦略 世界最大の人口島・世界最高層の建造物・世界最大規模の噴水小ショー
なぜ世界一にこだわるか？ 世界二位は誰も知らないから（ムハンマド殿下）

やはりこのようにまず No1 ということで知ってもらうことがより大切なことだと学びました。

出雲市の観光戦略も日本一にこだわっているいろいろ探ってみても面白いのでは（対象、地域を絞った日本一）

またドバイの街は国が作ったわけではなく世界の企業が進出して街を作ったとのこと。出雲市も行政だけの力ではなく進出する企業の力で出雲市の街づくりに協力してもらえればどうでしょうか。

京都の観光戦略も学びました。京都は年間 5,000 万人の観光客が訪れる国際観光都市とのこと。

出雲市も年間 1,200 万ですから学ぶことが多いです。

まず、外国人宿泊者数が 450 万人で（出雲市 80 万人）ヨーロッパ人が多い傾向があるようです。

日本食・ショッピング・自然景勝地観光・お酒・旅館に宿泊が主なその理由のようですが、出雲市も宿泊客数の増（年間 100 万人）を目指していますから非常に参考になると思います。

夜のイベントと早朝のイベントは必須項目です。

また「京都市市民憲章」を制定されその中に「旅行者をあたたくむかえましょう」とあるようです。

この思いは大きな力となるでしょうし、大いに学ぶべきだと思います。

また 3 つの集中の是正に取組まれ

- ① 時間帯の分散
- ② 季節の分散
- ③ 場所の分散

これらも是非参考にしていきたいものです。

また修学旅行生の対策も充実しており「観光はリピーター産業」との信念があります。

なにはともあれ

観光は・・・

- ① 高齢者向けのビジネス
- ② インバンドは必ず成長
- ③ 絶対的」成長産業
- ④ 旅行ロスがすごい

を受けて出雲市にとって儲かる観光戦略ができるよう DMO 中心に取り組まれることを期待いたします。

令和 8 年 2 月 27 日

出雲市議会 議長 様

会 派 名 公明党

代表者氏名 錦織 稔

(署名又は記名押印)

視察研修について (届)

このことについて、下記により実施いたしますので、関係書類を添えて届けます。

1. 日 程	令和 8 年 3 月 30 日 ~ 令和 8 年 3 月 31 日 (2 日間)	
2. 視察研修先 及び視察研修 目的	3 月 30 日 (月) 地方議会研究会主催 セミナー講義 3 月 31 日 (火) 地方議会研究会主催 セミナー講義	講演受講 「人口減少社会における出産と子ども・子育て支 援の問題点と課題」 講演受講 「介護保険制度の財源と給付のあり方と地域包 括ケアシステム」
3. 参加者	錦織稔 石橋広信 樋野千晴 計 3 名	
4. 添付書類	行程表 (別紙)	



【2026年3月30日～3月31日 公明党会派視察日程表】

3月30日（月） 8:30 出雲空港集合
9:15 出雲空港発
10:35 羽田空港着
11:00 移動
11:30 ワシントンホテル着
12:00 昼食
13:00 移動
13:30 研修受講
16:00 移動
17:00 ワシントンホテル着

3月31日（火） 9:00 移動
10:00 研修受講
12:30 昼食
14:00 移動
15:30 羽田空港着
16:55 羽田空港発
18:25 出雲空港着

令和 8 年 3 月 31 日

出雲市議会議長 様

会 派 名 公明党

代表者氏名 錦織 稔

(署名又は記名押印)

視察研修について（報告）

このことについて、下記により実施いたしましたので、関係書類を添えて報告します。

1. 日 程	令和 8 年 3 月 30 日 ～令和 8 年 3 月 31 日(2 日間)	
2. 視 察 研 修 先 視 察 研 修 目 的	3 月 30 日 (月) 地方議会研究会主催 セミナー講義	講演受講 「人口減少社会における出産と子ども・子育て支援の問題点と課題」
	3 月 31 日 (火) 地方議会研究会主催 セミナー講義	講演受講 「介護保険制度の財源と給付のあり方と地域包括ケアシステム」
3. 参 加 者	錦織稔 石橋広信 樋野千晴 計 3 名	
4. 添 付 書 類	1. 報告書	



1. 視察・研修事項

地方議員研究会主催 講演「人口減少社会における出産と子ども・子育て支援政策の問題点と課題」
(講師: 甲南大学 経済学部教授 足立泰美氏)

2. 研修の目的

わが国最大の喫緊の課題である人口減少と少子化の実態を、最新の統計データと経済学的視点から学び、出雲市における実効性のある子育て支援施策への反映を模索するため。

研修内容の概要

講演では、出生率低下の要因が「未婚化・晩婚化」だけでなく、夫婦の「完結出生児数」の減少にある点が指摘された。主なポイントは以下の通り。

- ・ 経済的要因と少子化: 若年層の雇用不安定化や実質賃金の伸び悩み、教育費の高騰が、結婚・出産への心理的・経済的障壁となっている。
- ・ 「子育ての孤立化」と外部化: 核家族化による育児負担の偏りが深刻であり、公的な支援だけでなく、保育サービスの「量」から「質」への転換、および地域全体での見守り体制が不可欠である。
- ・ 政策のミスマッチ: 従来の現金給付中心の施策だけでは限界があり、働き方改革(長時間労働の是正)やジェンダー平等の推進など、社会構造そのものの変革が必要である。

4. 出雲市政への反映・所感

本講演を通じて、少子化対策は単なる福祉施策ではなく、各地域

の持続可能性を左右する「最優先の投資」であるとの認識を強くした。出雲市においては、製造業等の就業構造を踏まえた男性の育休取得促進や、待機児童解消の先にある「質の高い保育・幼児教育」の提供が求められる。特に、経済的理由で出産を躊躇する層に対し、伴走型相談支援と経済的支援を一体的に提供する「公明党の子育て応援トータルプラン」を軸とした、切れ目のない支援体制の構築を提言していきたい。

【報告書】2

1. 視察・研修事項

講演「介護保険制度の財源と給付の在り方と地域包括ケアシステム」

（講師：甲南大学 経済学部教授 足立泰美氏）

2. 研修の目的

超高齢社会の進展に伴い、介護保険制度の持続可能性が問われている。本研修では、制度の財源構造と給付の現状を整理し、今後自治体が目指すべき「地域包括ケアシステム」の深化と、効果的な介護予防・生活支援の在り方を学ぶことを目的とした。

3. 研修内容の概要

足立教授からは、主に以下の3点について経済学的な視点も交えた解説があった。

- ・ 財源と給付のミスマッチ：現行の介護保険制度は、現役世代の急減と高齢者の急増により、保険料と公費の負担が限界に達しつつある。給付の重点化と効率化は避けて通れない課題である。
- ・ 地域包括ケアシステムの構築：単に医療・介護をつなぐだけでなく、住まいや生活支援を含めた「地域完結型」の体制構築が不可欠である。特に、元気な高齢者が支え手に回る「共生型」の仕組みづくりが、財源抑制と生きがい創出の両面で有効である。
- ・ データに基づく政策立案(EBPM)：自治体ごとに異なる高齢化率や要介護認定率の推移を分析し、地域の実情に即した「介護予防事業」の有効性を検証し続ける重要性が説かれた。

4. 出雲市への示唆と今後の取り組み

本市の現状に照らすと、以下の取り組みを強化する必要がある。

1. 介護予防の「質」の向上：通いの場などの「通所型」だけでなく、個別の生活機能にアプローチする「訪問型」の充実を図り、重症化を未然に防ぐ。

2. インフォーマルサービスの活用：公的サービスに依存しすぎないように、NPO やボランティア、民間企業との連携による「生活支援体制」を再構築する。
3. 多職種連携の深化：ケアマネジャーを中心とした専門職と、地域住民、行政が情報を共有し、孤立を防ぐネットワークを強化する。

5. 結びに

今回の研修を通じ、介護保険制度を「福祉」としてだけでなく、地域の「持続可能な基盤」として捉え直す必要性を痛感した。公明党会派として、市民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、制度の持続可能性とサービスの質の確保に向けた政策提言を積極的に行っていく。



(講習の様子)